

Google Apps for Business が 手間やコストの劇的な改善の上に 業務における強力な武器をもたらす



アビリティス ホスピタリティ株式会社

〒106-0032

東京都港区六本木 6-7-6 六本木アネックス

<http://www.abilitashospitality.com/>

組織概要

不動産総合マネジメントサービスを提供するザイマックスグループの一員として、ホテルや旅館などのホスピタリティ事業に特化したアセットマネジメント（資産管理）、プロパティマネジメント（運営支援）、コンサルティングをワンストップで手がける。特定のホテルブランドに属さない中立的な立場により、クライアントの独自ブランドの確立、もしくは最適なホテルブランドとの提携を選択し、最大限の価値創造を図れるところを強みとする。

以前は月1回の頻度でトラブルに

ホテルや旅館などのホスピタリティビジネスへの投資が注目されている。これを成功させるために、クライアントの投資先であるホテルや旅館の資産管理や運営支援を手がける少数精鋭のプロフェッショナル集団が、アビリティス ホスピタリティである。同社は、2012年2月、Google Apps for Business を全社員および協力会社に導入した。

以前は、データセンターのホスティングサーバーに導入した Microsoft の Exchange Server を利用していた。メールクライアントとカレンダーは Outlook を利用。

「2011年頃からソフトウェア及びハードウェアのトラブルにより、月1回ぐらいの頻度でネットにアクセスできない、メールの送受信ができないといったトラブルに見舞われるようになりました。社内の IT 担当は私しかおらず、かつ本業で支援しているホテルなどの IT 管理にもかかわっていたので、自社のシステム管理の手間が大きなネックになっていたのです」とテクノロジー マネージャーの藤崎敏弘氏は言う。トラブルが生じると、片道1時間かけてデータセンターに行ったり来たりするという大きな手間がかかっていたのだ。さらに、メールボックスの容量が少なかったため、全社員が不要メールの削除に追われることもしばしばだった。

また、同社社員は支援先のホテルなどに出かける機会が多く、必要な人にはメールが送受信できるよう設定したブラックベリーを貸与していた。しかし、その管理サーバーもしばしばダウンし、管理の手間が多重化していたのである。

豊富な実績の安心感があった Google Apps for Business

以前から個人的な Gmail ユーザーで、Google Apps for Business の存在を把握していた藤崎氏は、「クラウドのサービスならば、ハードのメンテナンスから解放される」と考えた。さっそく Google Apps for Business および Microsoft Office365 を扱うリセラーのセミナーに参加するなどして比較検討する。その結果、Google Apps for Business を選定。

「当時リリースされたばかりで不明点が多かった Office365 に対して、Google Apps はいろいろと実績があって安心感がありました。Office365 は Office の最新版が使えることがメリットのようでしたが、使い慣れている旧バージョンが使えないのは逆にデメリットだと思ったのです」

藤崎氏は Google Apps for Business をまず自分用に1アカウント導入し、全社的に展開できるかテストすることにした。その過程で、「どこでも使える」クラウドサービスに対して間違いなく利便性が向上することを確認するとともに、セキュリティ面ではリスクを漠然と感じたという。

「そこで、導入に際しては2段階の認証機能を導入した上で、安全な使い方を社員に周知徹底するとともに、『せっかくの便利な機能を制限しなければならないような事態にしないようにしてほしい』と注意することにしました。それ以上の規制は、せっかくの利便性を削ぐと判断しました」。

Google Apps でワークフローや BI ツールも開発へ

Google Apps for Business 導入の成果は、まずは藤崎氏の手間やコスト削減に如実に表れた。「サーバー保有を全廃したことで、それまでの業務時間の半分は占めていたメンテナンス業務が一掃されました。IT コストも30%はカットできたと思います」と藤崎氏は顔をほころぼす。

個別のアプリケーション導入でも成果が上がっている。Gmail は、容量が劇的に向上したことにより、社員各自が削除に追われるという余計な手間を一掃。Google サイトでイントラのポータルサイトを構築することで、従来ファイルサーバーで管理していた共有ドキュメントの使い勝手を大幅に向上させた。また、申請書を承認者が PC やスマートフォンでチェックすると Google ドライブ上にデータが残るワークフローを開発し、申請・承認業務を効率化した。Google ドライブは、支援先のホテルへのセミナーの参加申込やアンケートの回収・集計にも活用。また、アメリカとシンガポールとの共同プロジェクトでは、Google ドライブで資料を共有しながら電話会議を行うこともできた。

「こうして自社で Google Apps の使い勝手の良さを確認できたので、今、支援先のホテルなどにも導入を勧めているところです。支援先にも行き渡れば、情報の共有やコミュニケーションが相当改善されると思います。また、レポートを自動的に加工・共有する BI ツールも Google Apps でつくれば支援業務の強力な武器にできると思います。これからももっと Google Apps を活用していきたいと思っています」と藤崎氏は結んだ。